

地域医療を担うドクター vol.8

医療法人財団 はまゆう会

「新王子病院」

本文中の「王子病院」、「相生リハビリテーションクリニック」は、2015年現在、「新王子病院」へと名称を変更されています。



血倉山を望む人口25万7千人の北九州市八幡西区において、地域医療に貢献し続ける「医療法人財団 はまゆう会」市丸喜一郎 理事長(71歳)にお話を伺った。

医者になる動機と覚悟

私の実家は、建築業で医者とは全く縁がありませんでした。それなのに医者になったのは、取立てて高邁な考えがあった訳でなく、強いて言えば幼少期に母と妹を結核で相次いで亡くしたこと、父親も病気がちで、そして継母も看護師であったことが少なからず影響を与えたと思います。

世間が“安保闘争”で騒然としていた頃、運良く九州大学医学部へ入学する事ができました。大学へ入ってから、病理解剖のプロトコール作成のアルバイトをしました。そうした縁があって大学院では病理学を学びました。大学院へ通っていた時、医局講座制解体を叫んだ“学園紛争”に参加しました。その当時のことを「お前は学部長だった教授とよく喧嘩していたなあ」と、未だに同僚や先輩から言われます。医学部正門座り込みなど随分無茶な事もやったものですから、当然大学には居づらくなりました。そして、大学での研究の道を諦め臨床医になろうと思い、その足がかりとして麻酔学を勉強することにしました。病理と麻酔を勉強する過程で、多くの先輩や同僚と出会いましたし、この時すでに結婚して子供もいました。今思い返しますと、そうしたことが臨床医になるという覚悟を後押ししてくれたと思います。

臨床医としての原点

臨床医になる覚悟はできたのですが、なかなか勤務先が決まらない日々が続きました。そして、やっと決まったのが済生会八幡病院(現 済生会八幡総合病院)でした。せっかく決まったのですが、初めてこの病院を訪ねたとき、あまりの老朽化ぶりに驚き、この病院に勤めるのを辞めようかと思ったくらいでした(笑)。

済生会八幡病院では消化器外科に勤務し、手術・麻酔、時

には病理解剖まで、臨床医として何でもやりました。その後九州では先駆けであった腎センターで腎移植が始まると、移植の麻酔・手術に立ち会わせて頂くようになりました。その縁があって、1974年 腎センター勤務を命ぜられ、透析診療に深く携わるようになりました。この病院で、故 広澤正久院長や合屋忠信 現名誉院長を始めとする多くの真摯で心優しい先生方との出会いがあり、本当に親身になって指導して貰いました。そういったことから、済生会八幡病院での多くの経験が私の臨床医としての原点になっていますし、開業してからはこの病院が地域医療を担う上で当院のセーフティーゾーンにもなっています。

透析クリニックを開業

1976年、済生会八幡病院腎センターの先生方のご協力を得て、北九州市八幡西区に透析施設「黒崎クリニック」を開業しました。透析の効果・効率が少しでも上がる事を考え、当時最新鋭であったGAMBRO社の個人用透析装置AK-5を10台導入し、透析を始めようと考えました。しかし開業準備の時、ビルクリニックのため電圧が安定せず、透析装置がうまく稼動しないというトラブルに見まわられました。スウェーデンから来日した技師が、2週間もかかってやっとこのトラブルを解決し、何とか開業日に間に合わせることができました。当時、九州では珍しかった欧州スタイルのチェアー形式で透析を行いました。

開業後来院される患者さんも増え、地域の長者番付に載った時、同級生から聲をもらったことがありました。しかし実際の経営内容はどうかという、開業時の借金返済がありキャッシュフローとしては火の車で、銀行からの融資の繰返しで運営していたのが実情でした。従って、開業当時のスタッフに十分な待遇ができなかった事を未だに申し訳なく思っています。

医業の継続性

クリニックを運営していくうちに病床の必要性を感じ、1988年透析装置100台を有する王子病院を設立し透析医療の充実を図りました。この頃、将来的に質の高い医療を継続して提供し続けるためには、優秀な人材を安定的に確保することが不可欠思うようになりました。そのためには個人経営の医療施設ではなく、持分のない医療法人の設立しかないのではないかと考えるようになり、1989年、王子病院の現院長である田中先生を始めとする多くの方々の協力を得て、医療法人



はまゆう会 王子病院



相生リハビリテーションクリニック

財団「はまゆう会」を設立しました。このことが、将来展望を開く礎となっています。

今後、ますます高齢化が進む中で地域医療を担っていくためには、これまで以上に循環器疾患へ対応すること、そして本格的なりハビリテーションの必要性が増すと考えました。そして2000年 八幡西区鉄王に有床の「相生リハビリテーションクリニック」を設立しました。また、同時に患者さんの生活空間を確保し福祉を充実させる目的で、社会福祉法人久岐の海会「ケアハウスあいおい」も併設しました。

患者さんと共に歩む

透析診療を行う上で、患者さんやそのご家族へ心理的側面からもサポートすることは大切だと考えています。当院ではそれを補うために開業当時から現在まで続いている雑文集“はまゆう”（発刊71巻）があります。雑文集“はまゆう”には、患者さんが中心となって、各自の透析事情や思いが比較的明るい色調で綴られています。また、透析患者さんの“語りの会”というのも当院の特徴のひとつだと思います。“語りの会”とは、透析医療を受けている患者さんに日頃思っていることをクチに出して語って頂き、そのことを映像に収録しています。雑文集“はまゆう”や“語りの会”を始めたのは、患者さんに病氣と向き合う為に必要な情報や心の支えを提供し、また、ご家族・友人、医療に携わる人々に透析医療についてもっと理解してもらおうと考えたためです。また、患者さんとのコミュニケーションを高めるために“患者さん向け定期勉強会”“バス・ハイク”“歩こう会”“運動会”も行っています。そんな中、昨年サイコネフロジー研究会で、その“語りの会”が「野原記念賞最優秀賞」を戴き、スタッフと共に喜びました。

「はまゆう会」の腎友会組織率は、今も80%を維持しています。これは、腎友会役員のご尽力もさることながら、腎友会の活動そのものが、一人ひとりの患者さんから評価され続けている結果だと思います。腎友会は、私どもにとって本当に宝物のようなものです。



雑文集「はまゆう」



はまゆう会創立20周年記念大運動会

スタッフに感謝

「はまゆう会」には、自分たちの職場は自分たちで良くしようと活動している“コアネットワーク”というグループがありま

す。“コアネットワーク”のメンバーは「はまゆう会」の問題点を抽出し、職場改善・制度の確立や定着を図るために活動しております。

“コアネットワーク”の提言がきっかけとなったものに“子育て介護支援制度”があります。この制度は、女性スタッフに安心して末永く勤めて貰いたいと考えたもので、福岡県の「子育て応援宣言」にも登録しています。そして、この制度で北九州市から「第1回 ワーク・ライフバランス表彰」企業・団体部門の市長賞も戴きました。

また、「はまゆう会」ではスタッフを平等に評価するために“人事考課制度”を積極的に活用しています。人事考課は一般に“査定”と捉えられがちですが、私は“育成”を基本理念と考えています。導入当初、スタッフの間では戸惑いが多く見受けられました。しかし、現在まで10年以上人事考課を運営するにつれ、その制度の本来の目的である“部下を育成する”“部下の意欲を引き出す”ことが着実に進んできていると実感しています。

医療も介護もサービス業

異論はあると思いますが、私は医療も介護も本質的にサービス業と考えています。ですから、医療施設が提供する成果と患者さんが支払う対価は、本当に釣り合いが取れているのだろうか、また患者さんは対価以上に満足感を感じ取っているのだろうかと考えることがあります。

「はまゆう会」がここまでやってこれたのは、患者さんに恵まれたこと、先輩や同僚の先生に恵まれたこと、ドクター・看護師などスタッフに恵まれたこと、そして、日々の医療をサポートしてくれる薬品会社を始めとする業者さんに恵まれたからだだと思います。

これからも私たちは、理念に基いた活動ができているか、つまり患者さん本位の医療が実践できているのかを常に考え、行動していかなければならないと思っています。

施設名:医療法人財団 はまゆう会
新王子病院
北九州市八幡西区鉄王2丁目20番1号
URL: <http://www.hamayuukai.or.jp>

取材・編集担当
アイティーアイ株式会社 営業本部 満尾・小川
福岡市博多区博多駅南3-7-37
Tel: 092-472-1881

支店
福岡・北九州・久留米・長崎・佐世保・大村・大分・熊本・八代・鹿児島・宮崎・沖縄
営業所
山口・筑豊・佐賀・五島・天草・川内・延岡・都城・鹿屋
連絡事務所
東京・東関東・千葉・東京西・神奈川

※ 弊社では透析・リハビリテーションに関する商品を多数取扱っております。お気軽にお問い合わせ下さい。